

# 深夜の避難行動を訓練

## 参加者は貴重な体験

八本松中央地区自主防災会 訓練  
八防 中央 松災 中訓 本防

八本松中央地区自主防災会は10月28日午後6時30分から夜間防災訓練を実施した。

非常灯を頼りに2階へ避難する参加者



2階の避難所に待機し安否確認訓練する参加者



この日は夜の雨天にもかかわらず昨年を上回る57名が参加。なかでも子供たちの参加は15名と多く関心の高さが伺えた。訓練は自家発電による非常灯と参加者の持参した懐中電灯の灯りで1階のホールから2階にセットされた避難場所に避難することから始まっ

た。このような夜間の建物内の避難行動について消防署西分署の内山さんは「暗闇では壁に手を当て、落ち着いて移動することが重要。特に火災で煙が発生している場合、ハンカチ等で口を覆い姿勢を低くして移動しよう」と身振りを交えわかりやすく説明。

参加者は実際に煙が充満した部屋での移動を体験したり、懐中電灯を利用した簡単なカンテラづくり等深夜の避難行動を体験した。

また、参加者は食料班が炊出しで作ったおむすびと味噌汁を食べ、市危機管理課の寺脇さんによる防災の基礎知識を学んだ後、防災クイズにチャレンジ。特に子供たちが真剣に考えている姿に参加した大人の方も感心されたようだ。

主催した自主防災会の近藤会長は「最近、夜間発生する災害が多く、あえて夜間の訓練に取り組んだ。参加者の皆さんも日常では経験できない夜の訓練で貴重な体験をされたこと

と思う。また、集会所の資機材も今日の訓練を基に順次整備する必要がある」と所感を述べた。



建物火災の避難方法を説明する西分署の内山さん(左)



防災クイズを出す市の寺脇さんと真剣な表情で考える子ども達

# 防災実践訓練 夜間に避難所設営

## 下組総合自治会自主防災会 発電機-LEDライト テント 仮設トイレ 設営

下組総合自治会自主防災会(会長 崎春香)は11月11日夜6時、約40名の防災役員等関係者を集め、一時避難場所に指定されている「かつえ坂第2公園」で防災訓練を実施した。

この日の訓練は、今までそろえられた資機材を実際に組み立てて確認するもの。集まった皆さんは中崎会長指示のもとLEDライト設営班、テント設営班、トイレ設営班に別れヘッドライトを頼りに大型機材の設営訓練とその他の資機材確認が行われた。今回は昨年に続き2回目となることや消防署西分署の指導もあり円滑に行われた。また、食料班からは炊出しで炊き込みご飯が皆さんに配布される等、昨年より充実した訓練となった。

想定して小資材も合わせた施設等の配置訓練を考えていただければ」とコメント。中崎会長は「夜間で寒いなかでも訓練ができたことは皆さんの協力のおかげです。有難うございます。」と述べ訓練を終了した。

訓練終了後、消防署西分署の池田さんから「設営作業に慣れられたことは訓練継続の成果、今後は実際の避難所運営を



テント設営 後方の照明は自家発電によるLEDライト



八本松みなみ地区  
自主防災会

# 救命の連鎖が命を救う

## 心肺停止の方を見つけたら あなたはどうしますか

総合  
防災訓練

八本松みなみ地区自主防災会(会長 横井國興)は12月3日に防災会発足後5回目となる恒例の総合防災訓練を八本松市民グラウンドで実施。今回は9人の子どもたちを含む約90人の住民の方が集合した。



交代しながら胸骨圧迫を継続する訓練

この日の訓練は、119番通報、初期消火、心肺蘇生、毛布による担架搬送、車椅子搬送、高齢者体験等と基本的なもので、全員が体験できるような仕組みになっていた。

消防署西分署の荻野さんは「救命活動は途切れることなく行うことで人の命を救うことができる。」

心肺停止を認識したら救急車を待つのではなく現場に居合わせた皆さんにより心肺蘇生(胸骨圧迫)を継続し救急隊に繋がなければならぬ」と「救命の連鎖」を強調。参加者は4体の人形を使って交代しながら胸骨圧迫を体験した。

車椅子の訓練では段差のある障害物を乗り越えるため3名で支援。車椅子に乗った参加者は「今日は多くの方に見守っていただき安心です」と感想を述べられ、だれでも車椅子の操作ができるよう訓練の必要性が認められた。

心臓停止を認識したら救急車を待つのではなく現場に居合わせた皆さんにより心肺蘇生(胸骨圧迫)を継続し救急隊に繋がなければならぬ」と「救命の連鎖」を強調。参加者は4体の人形を使って交代しながら胸骨圧迫を体験した。

最後の防災クイズゲームでは難問にもかかわらず10問中9問正解した野村さんご家族

アンケートの結果でも多くの方が「近所の方と楽しく会話しながら訓練できた」とし、全員の方が「役に立った」と回答された。

大山ハイツ自主防災会(会長 葛原一良)は10月15日市危機管理課の中川さんを招き八本松西集会所で防災講習会(出席者93名)を実施。今回は過去去来島市内で起こった災害を振り返り、今後発生すると思われる災害への防災ポイントを学んだ。

災害現場等の負傷者や応急手当が必要な人の命を守るにはまず安全な場所への移送が求められる。今回の訓練はそのような現場に遭遇した場合、身近な用具で簡単にかつ安全に移送する方法について消防署西分署の方から学んだ。

葛原会長は「災害はどこでも起き、今やるのが理解できたと思う。今後も多くの方の参加をお願いします」と述べ講演会を終了。

毛布と竹竿による担架や毛布だけによる担架の作り方の指導を受け、その利用方法について緊急性の度合い、現場の人数や状況様々なケースで対応できる具体的な訓練を受けた。



クイズで優勝した野村さんご家族



3人の援助で段差越え



「日頃から備えを」と話す中川さん



毛布による担架づくりを学ぶ参加者

災害現場で活きる  
負傷者移送方法を学ぶ

となった。

八本松西  
自主防災会